

古い街並みを抜けて、二上山登山口へ

◆鳥が飛び、遊ぶ 白金池の水景



休日には登山者でにぎわう

香芝市を象徴する顔の二つ、二上山。その登山口のあるのが畑地区で、週末ともなれば多くの登山客の姿が見られます。「ここにはまた、古い町並みも残っています。市外からやってきた人たちは二上山を登る前に、どんな町の風景に出会うのでしょうか。梅雨が明けたか明けないので、そんな微妙なシーズンに畑地区を歩いてみました。



ちょっと歩いてみようかな、とその気にさせる道標

カンカン照りのお日さまに負けまいと、勇んで近鉄南大阪線・二上山駅をスタートしました。駅から登山口まではおおよそ〇・八キロ。なだらかな坂道をしばらく歩くと、自動販売機を店先に構えた店が見えてきました。店の中をのぞくと、いろいろなものが陳列されており、ちよつとした百貨店のようです。忘れ物をした登山者にはありがたい店でしょう。ちよつと回り道をして南に歩くと、道標が見えてきました。右は二上山駅、左は當麻町。當麻町へは近畿

自然歩道が続くところです。

白金池まで来ると、緑の香りが強くなってきました。藍色の水景は、いかにも涼しげ。遠く池のほとりには、栗の木がすくくと立っています。間違つて触ると「痛いー」と叫んでしまつてグゲした毬(いが)もまだ緑色。なんだか可愛げが感じられます。

草むらには蜂が飛んでいて、「刺されないように気をつけよう」と思つていると、その注意をそらすかのように、突然、鳥の甲高い声が一羽の小さな鳥が池の水面ぎりぎりにまで近づいたかと思つと、すぐに高く舞い上がって大空に消えていきました。

◆軒先の花に 励まされる旅人たち

高台の町をふらふらと歩きました。はつとすると目を引くのは土壁の家。古風な佇まいに思わず見とれてしまいました。「板壁の家も建つている」と感慨深げに見ていると、向こうから麦わら帽子をかぶっ



庭の手入れもゆきとどいた古いりっぱな家

たおばあさんがごつちに向かつて歩いてきているのに、ドキッ。旧家の景観に見とれていて、おばあさんの登場はあまりにも突然のことだったのです。ごは時間を忘れさせるような空間なのかもしれません。

このあたりから、上りの傾斜も本格化します。少々疲れそうですが、多くの家の玄関先や軒先に飾られた花がそんな疲れを吹き消してくれます。ガーデニングがブームになっているからかしら、とも思いま

◆山に抱かれた 美しい街並み

桜でおなじみの専称寺にたどりつきました。樹齢百五十年以上というしだれ桜が有名で、開花シーズ

したが、そうでもなげなげうな...
鉢の置き方の一つ一つでも、日の当たり方や花が美しく見えるように考えられている気がします。昔からここに住む人の優しさを物語っているようです。住人は知っているのか知らずにいるのか、花は気づいているのかいないのか、丹精を込めて育てられた背の高さも色も形もさまざまな花はここを通る人々の心を温めています。



道ゆく人々の心をなごませてくれる可愛い花



多くの人々の願いをかなえてきた百度石

ンには開放された境内に一般の人の姿も見られません。門前脇で、お百度参りの道標として立てられた百度石を見つけた。かつて本殿とこの石を往復して、願を掛けた人がいたのでしょいか。百度石を見ると、時間を遡ってしまう気がします。

専称寺の本尊は阿弥陀如来立像（像高九十六センチ）。鎌倉時代前期に作られたものだそうです。香芝市内でこの時期に作られたと考えられるものはこの作のほかになく、注目すべき鎌倉彫刻の一つとなっています。観音堂に安置されている木造十一面観音菩薩立像は、市内で現存する最古の木彫仏。平成六年度香芝市の文化財に指定さ



古い街並みを抜けて、二上山登山口へ

れました。
次に春日神社が見えてきました。祭神は天兒屋根命で、銅板葺の社殿と石燈籠一対が落ち着いた雰囲気を醸し出しています。左手にある道をさらに上り、大和高田ハイパスを渡ると、香芝市畑配水場と上ノ池の間に二上山登山口が見えました。道標によれば、雄岳山頂までは二・四キロメートル。
登山口のほの暗い道を少し行くと、ひんやりした空気が流れます。静寂に吸い込まれるように思えましたが、かすかに聞こえるジージー



質実剛健な鎌倉時代の気風が漂う専称寺

というセミの鳴き声。登山者が降りてきました。熟年カッブルが一組、そして男性の登山者一人…。どこか爽やかで、満足そうな表情を浮かべているのが印象的でした。こうして一人、また一人と、聖なる二上山は登山者を受け入れては、生きる力を与えて街へ送り出しているのです。



静寂の世界にまよい込んでしまったかのような春日神社の境内

時期にもかかわらず秋の夜長の合唱団員、コオロギやキリギリスの鳴き声に驚き感動したことも忘れるほどスアキな眺めでした。
東のほうには若草山、南の方角には遠く大和三山、天香具山・耳成山・畝傍山がそびえたちます。近畿の屋根と言われる大峰山もつつすらと見てとることが出来ます。山を背景にモザイクのように家々が並び街並み。この眺望は、この「街並み再見」の一番の贈り物のようでした。